

## 稼働後のリネン吸着法調査を始めました

東御市木質バイオマス発電チェック市民会議 原沢美香

2021年1月1日、初日の出を見ようとカーテンを開けた私の目に入ったのは千曲川を挟んだ対岸の木質バイオマス発電所からもくもくと立ち上る白い煙？（水蒸気？）でした。お正月もやっぱり休まないんだ…

東御市の木質バイオマス発電所は2020年7月15日稼働を開始しました。当初煙らしきものは何も見えず、私たち木質バイオマス発電チェック市民会議のメンバーも「本当に始まっているの？」と何度も現場をのぞきに行ったものでした。冬になり気温が下がると毎日もくもくと見え、見るたびにどうしてこんなものができてしまったのだろうと心が痛くなっています。

私たちは2019年の11月から翌年2月の3か月間稼働前のリネン吸着法調査を行い、データを集めました。比較するならやはり同じ時期にということで2020年11月から3か月間調査中です。

リネン調査はちくりん舎の青木さんにご指導いただきながら全部で10か所行っています。発電所のふもとの1か所を中心に3方向に1キロ、2キロ、4キロの地点にリネン布を張りました。千曲川を挟んだ河岸段丘の東御市。風の流れも川に影響されるだろうことを見越しての場所になっています。

と、書けばなかなか計画的にスムーズにいったように思われますが、実際はおっとどっこい…な感じで進みました。1回目目実施した時の写真を見て「リネンの高さが低すぎます、4メートル以上ないと下からの巻き上げの影響を受けてしまう」と青木さんから連絡がありました。これは大変！ 4メートルって結構な高さです。各場所、設置する角材を買ってきたり、野菜の支柱をつなげて高くしてみたり。そしてそこで私たち仲間から出てきた話が「4隅を止めると巻き付かなくていい」でした。「なるほど！高くして4隅を止めて完璧！」ところが、その写真を見た青木さんからまたダメ出し。「リネンの下を止めてしまうとブラウン運動をうまく拾えない。外してください」「でも、下のひもを長くしてはためくようにしたものはまあいいでしょう」ということで許可をいただき、やっとこさという感じで設置できました。



チェック市民会議の活動としてはこの他、とてもフットワークのいい仲間が毎日のように市の生活環境課に足を運び説明し、訴えてくれたおかげで市として灰の放射能検査を毎月ホームページにアップしてくれるようになりました。とても大きな成果だと思います。また、木バスのこと、放射能のことなど、少しでも多くの人に知ってもらえるよう、自分たちも学べるよう、月1回勉強会を開くことにしました。その名も「木バスサロン」。昨年8月から始めて4回行いました。テーマだけ紹介すると、第1回「森林バイオマスってカーボンニュートラル？」第2回「福島・宮城・北海道の木バス発電所見学報告」第3回「リネン吸着法って、すごい！」第4回「低線量内部被曝」です。コロナ渦で人数制限がある中、毎回上限の20名近くの方が集まってくれました。いつも教えてもらっているばかりでなく、自分で資料を読み、まとめ、発表するという経験が自身の理解を深めてくれていることにも気づかされました。その他、文章やパソコンが得意な仲間はブログに活動状況などをアップしたり、ニュースを作って発行したり広報活動も頑張っています。とても心強い仲間は足を使って歩き、語り、活動に必要なカンパを集めてきてくれます。そして発電所の本当に近くに住んでいる方達の熱い思いは何よりも私の心を動かします。

リネン吸着法調査の経費は市に出してもらえば？という人もいますが、私たち市民が自ら検査することが大事だとチェック市民会議のメンバーは考えています。ひらひらとはためくりネンは「私たちは見えています！チェックしています！」と訴えてもいるのです。

この先何年木バスが稼働し、私たちの活動も何年続くのか、わかりません。時にはくじけそうになる気持ちを、仲間に奮い立たせてもらいながら頑張っていきたいと思っています。大好きな東御市のために。未来ある子供たちのために。

\*市民放射能監視センター「ちくりん舎ニュース第25号」より転載